

# 令和7年度事業報告

## 障害者支援施設 四ツ葉園

### 1 利用者の状況(資料1～7)

令和7年度は入所1名、退所4名(グループホーム1名、他入所施設2名、疾病による死亡1名)となり、令和8年3月31日現在の在籍者数は76名(男性50名、女性26名)であった。年齢は19歳から82歳まで幅広く、平均年齢は46歳7か月であった。障害支援区分は平均5.2で推移し、重度加算対象者が全体の63%を占めた。全利用者が複数科の定期受診を行い、身体障害者手帳所持者は9名であった。在所期間は平均18年1か月であり、長期在所者が多い状況である。生活介護は年間平均73.3人/日、施設入所は76.8人/日と安定した利用が続き、短期入所は22名・373日、日中一時支援は10名・79日が利用した。

### 2 地域移行支援(資料8)

地域移行支援では、6ヶ月に1回本人の意向確認をおこなっている。利用者の意向や生活力に応じた個別支援を実施した。A氏(29歳)は、グループホームおよび生活介護事業所での日帰り・宿泊体験を段階的に行い、地域生活への適応が確認されたことから、令和8年2月にグループホームへ移行し、生活介護事業所への通所を開始した。B氏(21歳)についても、体験を継続しながら、本人の希望や生活リズムに合わせた移行準備を進めている。地域移行にあたっては、本人の不安軽減、生活スキルの確認、関係機関との調整を重視し、今後も希望に沿った地域生活の実現を支援していく。

### 3 感染症対応(資料9)

令和7年度は新型コロナウイルスおよびインフルエンザA型の集団発生があり、延べ98名が罹患した。感染症業務継続会議を適宜開催し、医療機関との連携、ゾーニング、環境整備等を実施した。また、県障害福祉課、中部厚生センター、各市町村福祉課へ適切に報告し、感染拡大防止に努めた。

### 4 日中活動および行事(資料10、11)

9月には環境整備の一環として、すずかぜユニットの改修工事(プレールームの床・壁・窓ガラス)を実施した。木目調の床と壁へ改修したことで、空間全体に温かみとやさしさを感じられる雰囲気となった。また、窓ガラスは安全性を重視して新調し、利用者が安心して過ごせる環境が整備された。日中活動では、手工芸、木工、運動、課題学習、リハビリなど、各活動班がスローガンに基づき多様な取り組みを展開した。行事については、園内行事に加え、選択社会見学、地域行事への参加、移動販売の利用など、利用者が自ら選択し参加できる機会を多く設けた。特に選択外出や移動販売は、利用者が「どこへ行きたいか」「何を買いたいか」を自ら決定する場として位置づけており、意思決定支援の強化につながった。さらに、地域での買い物や外出体験は、地域移行に向けた生活力の向上や地域社会との接点づ

くりにも寄与し、本人の望む生活の実現に向けた重要な取り組みとなった。一方で、地域移行を目標に取り組みを進める中でも、強度行動障害のある方については、変わらない生活環境がもたらす安心感にも配慮している。障害特性に応じた指示書を職員間で共有し、心身の安定を支援している。

#### 5 研修・職員体制(資料 12)

身体拘束適正化・虐待防止、業務継続計画 (BCP)、感染症対応等の研修を計画的に実施し、外部研修の内容も全体で共有した。職員の専門性向上に努めるとともに、資格取得では社会福祉士 1 名が新たに取得した。

#### 6 実習生受入れ(資料 13)

保育士、介護福祉士、社会福祉士等の実習生を延べ 144 日受け入れ、専門職育成に寄与した。なお、実習生のうち 1 名が令和 8 年度に当法人へ入職した。

#### 7 事故・ひやりはつと報告(資料 14)

事故報告は 10 件 (前年比 9 件増)、ひやりはつとは 59 件 (6 件減) であった。県への報告は 7 名 11 件であり、医療機関と連携しながら環境整備および見守り体制の強化を行った。早期発見と情報共有により、重大事故の防止に努めた。

#### 8 総括

令和 7 年度は、利用者の重度化や医療的支援の増加、感染症対応などの課題に直面したが、関係機関との連携および職員体制の強化により、安定した支援提供を継続することができた。また、行事や選択外出、移動販売等を通じて意思決定支援と地域移行支援を推進し、利用者一人ひとりの望む生活の実現に向けた取り組みを充実させた。

## 令和 7 年度事業報告

### 地域生活相談室

#### はじめに

地域で暮らしている障害者 (児) と、その暮らしを支えている家族に対し、相談を通して生活に必要な情報の提供と、それに伴う生活向上のための支援を行った。

また、精神的負担感を感じやすい業務であるため、引き続き相談室内でのケースの共有や現場教育を行い、バーンアウトを防ぐとともに、相談支援技術における専門スキルの向上を図っていききたい。

#### (1) 計画相談

計画相談支援	499件	(成人 304件	児童 195件)	前年度488件
--------	------	----------	----------	---------

モニタリング	770件	(成人 534件	児童 236件)	前年度720件
--------	------	----------	----------	---------

令和6年度の計画相談の更新件数は、前年度と比較して11件増えた。

モニタリング件数は、目標を600件としていたところ、770件と大きく伸ばすことができた。

報酬（者、児 計画、モニタリング）でみると令和6年度26,145,590円で令和7年度27,141,350円（見込み額）であった。前年度比995,760円増収だった。

## （2） 一般相談

家庭での粗暴行為がエスカレートしたケース、保護者の入院や認知症の発症により家庭状況が変化したケース等は、緊急的に介入したが、サービスが定着し生活が安定するまで時間がかかった。特に今までサービスを利用したことがない人の場合、サービス利用に慣れるまで丁寧な支援が必要であった。

引きこもりのケースには、障害特性の理解と本人との関係作りから始まるため、時間がかかった。

障害者虐待の案件については、関係機関と連携し本人の安全確保を優先し、その後の安心した暮らしに向けての支援を行った。

## （3） 障害児相談

ミュージック・ケアを保育所入所前の子育てサークル等で2回実施、立山町みらいぶで1回、立山町釜ヶ淵治区社協で1回、滑川市子ども図書館で1回の計5回、実施した。

障害児支援サークル「星の子サークル」クリスマス会を実施した。

## （4） 地域生活支援拠点

### ① コーディネーター業務

相談対応、緊急的な対応が必要となる者の支援、地域生活支援拠点拡充に関する協議を実施した。

② 実態把握訪問 1件

③ 緊急受入 3件（四ツ葉園2件、つつみだにの家1件）

## （5） その他

① 成年後見制度の利用に係る相談や申立に係る諸手続きのサポート、日常生活自立支援事業の利用のための情報提供やサポートを行った。ほか、障害年金、療育手帳等各種申請や手続きの相談を受け助言や支援を行った。

- ② 7月12日(土)上市町保健福祉総合センター2階会議室にて新川会福祉講演会を実施  
講演内容「職員がいきいきと働き続ける職場環境作りを目指して～ハラスメント予防と対応など基礎知識～」
- ③ 介護保険サービスへスムーズに移行できるよう、担当者会議で本人の情報等を引継ぎし連携した。男性1名が「第二つつみだにの家」から「有料老人ホーム東富山」にまた女性1名が「つつみだにの家」から「つるぎの庭」へ移行した。
- ④ 障害児等療育支援事業（施設支援一般指導事業）を活用して滑川市内の事業所と合同で身体を動かす機会や交流を深めるきっかけを設けた。

## 令和7年度事業報告

### 新川会 共同生活支援室

#### (1) 利用状況

令和7年度に男性1名、女性1名が介護保険施設に移行となり退所し、女性1名が入居している。20代から70代までの幅広い年齢の方が在籍している。日中活動先は一般企業（1名）、就労継続支援A型（2名）・B型（23名）、生活介護（3名）となっている。

#### ＜ 参考 最近5年間の利用状況 ＞

利用者数

3月末日現在

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
男	18	20	20	20	19
女	9	8	9	9	9
計	27	28	29	29	28

(まえざわ男性6/7、かわはらだ男性7/7、つつみだに女性9/9、第2つつみだに男性6/7)

#### (2) 利用者支援について

自立度が高い方が利用しているまえざわの家、かわはらだの家では、社会生活、対人関係のルールやマナー等の助言を行った。つつみだにの家、第2つつみだにの家の利用者については、基本的な生活習慣の習得に向けての支援、不安定時の声かけの仕方・タイミング等統一した支援を行った。

また、個別支援計画の作成にあたって、本人との面談や日頃のかかわりから利用者を感じるニーズ、利用者にとって本当に必要としているニーズを探りながらその意思を反映できるように努めた。

高齢の利用者については、日中活動である福祉的就労先での作業能力や意欲等を勘案しながら、介護保険への移行のタイミングを検討し、必要であれば成年後見制度の利用につなげ、地域包括支援センター、ケアマネジャーや相談支援専門員等関係機関と適宜情報共有しながら支援にあたった。

### (3) 人権の擁護について

個別支援会議や虐待防止委員会にて、一人ひとりの支援の振り返りをし、権利擁護に努めた。また、保護者が高齢、病気等により亡くなられ、成年後見人が選任されるケースが増えてきており、後見人との情報共有を図っている。

### (4) 職員の資質向上

今年度は、北陸地区地域支援・相談支援部会合同研修会に参加した。内部研修では、全体職員会議等で研修報告などを行った。

### (5) 避難訓練について

6月は水害を想定しての避難訓練を、12月・3月は火災を想定しての避難・消火訓練を実施し、利用者・世話人と共に災害時の対応、避難経路などの確認をした。

### (6) 感染症防止対策について

検温（朝、夕）、手指消毒、マスク着用、食堂にパーテーションの設置等、基本的な感染対策は継続して実施している。7月に新型コロナウイルスの罹患者が発生しており、マニュアルに従い対応にあたった。

### (7) 関係機関との連携について

不適応行動や高齢化の対応として、日中活動の事業所や医療機関、介護保険サービス事業所、ケアマネジャーと随時情報共有、連携して支援にあたった。

### (8) 地域との関係づくりについて

地域連携推進会議を開催し、地域からみたグループホームのあり方についてやグループホームの実情等の情報交換を行い、構成員の皆様にはグループホームと地域とのつなぎ役をお願いした。

# 令和7年度事業報告

## 障害福祉サービス事業所 雷鳥苑

### (1) 利用状況

定員は生活介護が13名(契約者数19名)、就労継続支援B型が17名(契約者数15名)である。生活介護においては長期にわたり利用が困難な利用者が1名契約解除となり、四ツ葉園より1名が新規利用となった。就労継続支援B型においては引き続き新規利用者の確保が課題となる。

### < 参考 最近5年間の利用状況 >

1日あたりの平均利用者数

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
生活介護	15.2人	13.0人	14.6人	13.1人	13.4人
就労継続支援 B型	16.8人	16.1人	17.2人	14.2人	14.2人

### 平均工賃

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
就労継続支援 B型	7,349円	13,877円	13,368円	21,216円	21,562円

### (2) 利用者支援について

自治会利用者が中心となって行事や活動の企画を行っている。毎日の当番活動にも意欲的に取り組む姿が見られている。7月に予定していた遠足はコロナウイルスの感染があり9月に変更となった。個別支援計画に基づき、一人ひとりにむきあい支援している。

### 令和7年度の主要行事

月	行事	備考
4	お花見	常願寺公園、大沢野方面 生活介護15名 就労B15名参加
8	夏祭り会	苑内にてゲームや模擬店を設置 赤十字奉仕団、雷鳥苑ボランティア アトラクション(フラダンス)
9	遠足	チューリップ四季彩館 砺波コカ・コーラ工場見学

		昼食 和風会館ふかまつ
	交通安全マスコット配布	交通安全マスコットの作成(かえるのキーホルダー) 立山町交通安全協会と配布
	ふれあい育成スポーツ大会	
10	苑祭(秋のお楽しみ会)	保護者・赤十字奉仕団・雷鳥苑ボランティア アトラクション(オカリナ演奏)
	ゆめ水族園鑑賞	元気交流ステーションみらいぶ
11	社会参加支援事業(音楽鑑賞会)	立山町防災児童複合施設アカリエ プロの演奏家を招いて開催
	立山町ボランティアまつり(ステージ発表)	ハンドベル演奏 9名参加
	福祉学習会(北部小学校4年生と交流)	作業体験・おりがみ
	もちつき	食堂にてもちつきを実施
	期末の集い	食堂にて実施 下段地区社会福祉協議会と保護者会よりプレゼント 株式会社ホクデンよりケーキのプレゼント
	社会参加支援事業(フライングディスク大会)	立山町中央体育センター(武道館)
1	新年を祝う会	会食 還暦の祝い 書初め
2	節分の会	豆まきゲーム
3	ひなまつりの会	お雛様

### (3) 生活介護メニュー

月に1度、書道を行う時間を設けて姿勢を正しく季節の言葉を文字として表現している。ルームランナーでは個別の時間や速度を明確にすることで、目標をもって取り組みことができているエアロバイクや、散歩等の運動メニューと室内での個別メニューを主に活動している。アルミ缶等のリサイクル活動に参加している6人には、夏と冬(年に2回)に賞与を支給することで意欲的に取り組んでいる。

### (4) 就労継続支援B型メニュー

ヘチマの栽培を実施し、自主製品として販売できるよう試作品作りを行っている。株式会社アスコ、環境センターでの軽作業、株式会社ホクデンのパンフレット封入作業、玉ねぎとにんにく畑作業には継続して取り組んでいる。

### (5) 人権擁護について

虐待防止・身体拘束適正化委員会で話し合われた内容を共有すると共に、全職員が

虐待防止研修に参加し人権擁護に努めた。

#### (6) 地域との関係づくりについて

立山町内の小学生やボランティアとのつながりを大切に行事や地域イベントでの交流を続けている。雷鳥苑祭では立山町料理飲食業組合からの出店もあり盛り上がりとふれあいの機会になっている。立山町社会参加支援事業として、プロの音楽家を招いた音楽鑑賞会やフライングディスク大会等を開催し、町内の福祉事業所との交流を楽しむことができた。

#### (7) 職員の資質向上

個別支援会議での利用者の支援方法や統一事項を確認しながら利用者一人ひとりにあった支援に努めている。法人全体会の内部研修に参加し、専門的な知識を広め、資質向上に取り組んでいる。

## 令和7年度事業報告

### 障害福祉サービス事業所 さつき苑

#### (1) 利用状況

就労継続支援B型事業所として定員30名の中、28名の利用があり3月に女性1名が生活介護サービスへの移行の為に退所した。

平均年齢が44.8歳となり年々上がっており作業項目についても配慮が必要な利用者も増えている。

#### ＜ 参考 最近5年間の利用状況および平均工賃額 ＞

##### 1日あたりの平均利用者数

3月末日

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
就労継続	定員20名	定員20名	定員20名	定員30名	定員30名
	12.9名	13.1名	13.0名	26.6名	26.8名

##### 平均工賃

3月末日

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
就労継続	19,602円	20,731円	23,894円	20,046円	21,817円

## (2) 利用者支援について

令和7年度の行事は自治会より「体験型の外出がしたい」との要望がまとまり、選択外出として鋳物作り・かまぼこ作り・鱈寿司作り・エコバック作り・陶芸の5種類から各々希望した外出を実施した。体験後は、互いの作品や体験について語り合う姿も見られた。

さつき苑祭は令和7年度も収穫祭として位置づけ、さつき苑で収穫した野菜をふんだんに使用した豚汁を提供し味わってもらったり、野菜や自主製品の販売を行った。農福連携でつながりを持てた農家からの大量のネギの出品や唐揚げのキッチンカーもあり好評であった。

事業所内行事でも、夏のお楽しみ会や、期末の集い、新年を祝う会などを実施。ゲームなどを通し互いの親睦を深める機会となった。

### 令和7年度の主要行事

月	行 事	実 施 状 況
4	お花見	常願寺公園等
7	選択外出	富山市 かまぼこ作り
8	夏のお楽しみ会	さつき苑にて
	選択外出	立山町 陶芸体験
9	選択外出	高岡市 鋳物体験
11	さつき苑祭	さつき苑にて
	選択外出	黒部市 エコバック作り
12	期末の集い	さつき苑にて
1	新年を祝う会	さつき苑にて
2	選択外出	富山市 鱈寿司作り

## (3) 生産活動

長年行ってきた藤堂工業からのリテーナ作業が令和8年4月で受注中止となること決定し、令和8年度からの受注作業を新たに探すことになった。半数以上の利用者が携わっており、収入の約55%以上を占める事業であったため、収入面の維持と変わらず多くの利用者が実施できる作業を探すことになった。その結果令和8年度からは(株)アスコのジャガイモ皮むきと北星ゴム工業株式会社のゴム裂き作業を実施することにし、1月からジャガイモ作業を開始し、また、北星ゴム工業とは打ち合わせを重ね新年度に向けスムーズな作業移行となるよう働きかけた。利用者は新しい作業にも真摯に取り組まれ、現在少しずつ慣れ今後の生産量の増加、安定のために日々頑張っているところである。

施設外就労では、農福連携の3件の農家との継続的な作業を実施し、正確な作業が評価

されそれぞれ信頼を得て、様々な作業に声をかけていただくようになった。つるぎ恋月での客室清掃作業も引き続き実施している。

自主製品の入浴雑貨は保管していた当帰やラベンダー・よもぎの葉に害虫が発生し販売中止をせざる得なくなった。近年の高温の中どのように管理、保存していくのか11月に薬用植物指導センターでの講習会に参加し、改めて管理について指導をしていただいた。

野菜の生産は野菜の種類を絞り確実に販売するため販売箇所を拡大し在庫を持たないようにした。入浴雑貨の収入は減少したが全体では受託作業が安定的にあったため令和7年度の平均工賃は21,817円であった。

#### (4) 職員の資質向上

外部研修では、全国知的障害者関係職員大会（福島大会）に参加し、帰苑後は復命報告により情報共有を行った。内部研修では、全体職員会議等で研修の伝達を行った。

#### (5) 自治活動の活性

外出行事の実施や内容について自治会を実施し、役員を中心に年間計画を立て行事を実施した。また、苑祭準備や感染症対策での手洗いについて役員が中心となり伝達を行い活動することができた。

#### (6) 人権擁護について

個別支援会議や虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会の情報共有や研修会参加にて、一人ひとりの支援の振り返りをし、人権擁護に努めた。

#### (7) 非常災害対策等について

法人の業務継続計画に基づき火災訓練とハザードマップによる洪水時の浸水を想定した訓練を行った。

## 令和7年度事業報告

### 障害福祉サービス事業所 つつじ苑

#### (1) 利用状況

定員は生活介護12名（現在17名）就労継続支援B型定員18名（現在14名）放課後等デイサービス10名（現在13名）である。

生活介護新規利用者は4月に1名、6月に就労B型から生活介護に変更した方が1名だった。

放課後等デイサービス新規利用者は2名だった。

退所者については放課後等デイサービスで3名だった。(令和8年3月31日付、高等部卒業、長期間利用がなかった等)

長期欠席や継続して利用ができない方については、相談室との連絡を密にしながら支援を行った。

#### ＜ 参考 最近5年間の利用状況および平均工賃額 ＞

1日あたりの平均利用者数

3月末日

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
生活介護	10.3名	11.5名	12.6名	10.3名	11.2名
就労継続	15.3名	15.0名	13.2名	11.9名	12.2名
放課後デイ			5.6名	7.8名	8.4名

平均工賃

3月末日

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
就労継続	5,755円	5,936円	8,148円	8,265円	9,087円

#### (2) 利用者支援について

通常の活動の他にも、スローエアロビック、3B体操、ヨガ教室、サッカー教室を行い、積極的に体を動かす機会を提供した。また地域の読み聞かせサークルにも来苑してもらい絵本の読み聞かせや歌、手品など実施した。

また、滑川市子ども図書館へ行き、パネルシアター等を鑑賞する機会を定期的に行った。

昨年度までは一斉に行っていた遠足を、利用者の希望を聞き選択外出と言う形で、4班にわかれ実施した。

#### 令和7年度の主要行事

月	行事	実施状況
4	お花見	行田公園で実施。
6	遠足	富山駅周辺観光 2グループ YKK 見学 フェアレショッピング
	まちなかカフェ出店	利用者手作り製品販売
7	七夕の会	職員によるコンサート
10	つつじ苑祭	クリスブラウンさんによる三味線演奏

12	障害者週間出店（滑川：エール）	利用者手作り製品販売
	もちつき	食堂でもちつきを行う
	期末の集い	利用者がサンタ役になりプレゼント配付を行った
1	新年を祝う会	利用者でペープサートを行う
2	節分の会	恵方巻作りを行う
3	ひな祭り会	桜餅作りを行う

### （3）生活介護

日中活動として行田公園や滑川市スポーツ健康の森までの散歩を行い、体を動かした。荒天の場合は、社会福祉センター2階の大会議室を利用してウォーキング、トランポビクス、ボールエクササイズを行った。毎月、壁面装飾作りも行い、つつじ苑祭で作品として展示した。生産活動として（株）ラクヨの広告封入作業を行った。8月と12月に賞与を支給した。

### （4）就労継続支援B型

令和7年度の収入は1,544,640円（前年比159,036円増）だった。平均工賃は、令和7年度9,087円（令和6年度8,265円）だった。

作業種目については、滑川市からの地下道清掃の請負（2箇所）、有限会社重松のタオル伸ばし作業、英光商事のPE袋カット作業、地域住民から依頼の除草作業等を行った。

### （5）放課後等デイサービス

支援学校や地元の小学校へ迎えに行き、保護者が迎えに来るまでの数時間を支援している。夏休み等の長期休みの際は、朝から夕方まで支援を行った。

長期休みの際は、昨年度は集団での外出をしていたが、今年度は個人の特性を考慮し小集団での外出を行った。

### （6）人権の擁護について

個別支援会議や虐待防止委員会にて、一人ひとりの支援の振り返りをし、人権擁護に努めた。

### （7）職員の資質向上

内部研修では、虐待防止研修等でグループワークを行い、知識を深め資質向上に努めた。

#### (8)新型コロナウイルス感染症感染防止対策について

感染対策として検温（朝、昼）手指消毒、マスク着用などの基本的な感染対策をおこなった。

放課後等デイサービス職員が、新型コロナに感染し4月9日～11日までサービスを休止したが、利用児童に感染者はおらず、大人の利用者にも感染者はいなかった。翌週から事業を再開した。

#### (9)実習生の受入れについて

指定校から社会福祉士や介護福祉士を目指す実習生を2名のべ13日間受け入れた。

#### (10)地域との関係づくりについて

6月のまちなかカフェで出店依頼があり出店した。コロナ禍以前は期末の集いを地元民生委員と一緒にしていたが、今年度も実施することはできなかった

## 令和7年度事業報告

### 障害福祉サービス事業所 四ツ葉園生活支援センター「小窓」

#### (1)全般的事項

令和6年4月1日開所から2年経過し、職員、利用者共に小窓での活動に慣れてきたため、落ち着いて活動ができるようになっている。今年度から小窓単独の行事や季節行事も取り入れ、活動の幅を広げている。

令和7年12月より、かみいち総合病院と嘱託医の契約を交わし、医師による健康相談が月一回実施されることとなる。

利用者支援に関しては保護者や関係機関と連携し、支援についての共通理解、情報共有を図っており、強度行動障害による他害、器物破損はあるも労災事故に至ることもなく、安定してきている。

令和8年3月より新規利用者の受入れもあり、スムーズに利用ができるように保護者や関係機関と連携をし、少しずつ小窓での生活に慣れ始めている。

#### (2)利用者状況 3月末日

- ・定員 20名 現員 17名
- ・平均年齢 29.1歳
- ・一日当たりの平均利用数 14.2(昨年度 15.2)
- ・平均区分 5.3

### (3)利用者支援について

個別支援計画を中心に支援をしており、利用者の状況に応じてケース会議、担当者会議を実施、また支援手順書は3か月に一度見直しを行った。

意思決定支援については、班活動や行事に選択する場面を設け、対応した。

支援が困難な最重度の利用者も多数利用しており、利用者(24歳)は、他の利用者への弊害も著しく、保護者、相談支援専門員、行動援護事業所、かみいち総合病院等と連携を取り、在宅生活やサービス利用の継続ができるよう、定期的にサービス担当者会議を開催し検討を続けている。

在宅での生活が困難な利用者(42歳)は、保護者(78歳)と二人暮らしで、本人の介助が困難な様子が昨年度から徐々に見られ、相談支援専門員、上市町福祉課と在宅生活の継続のため、情報共有を図っている。

令和7年度の主な行事は次のとおりである。

月	行 事
4	花見(4/4)
5	母の日プレゼント作り(5/9) 避難訓練・火災 5/9(四ツ葉園合同)
6	健康診断(6/2) 父の日プレゼント作り(6/13)
8	納涼祭8/9(自由参加)
10	四ツ葉園祭 10/11(自由参加) インフルエンザ予防接種
11	避難訓練・特殊災害 11/5(四ツ葉園合同) 紅葉狩り(11/10)
12	もちつきの会 12/4 クリスマス会 12/23
1	新年を祝う会 1/8
2	おやつ作り(2/13) 避難訓練・火災 2/6(四ツ葉園合同)
3	おやつ作り(3/30)

### (4)事故報告・ひやりはっと

事故報告は令和6年度には8件、内6件が他害による報告であったが、令和7年度は他害の事故報告は1件であった。全般的事項にも記載したが、職員、利用者共に小窓での生活に慣れ、落ち着いて活動できてきたからではないかと思われる。

事故報告2件(その他2)、ひやりはっと6件(服薬1、食事1、他害1、その他3)で、ひやりはっとのその他の1件は職員の不適切な支援があり、施設より上市町へ通報し、職員による身体的虐待と認定を受け、改善計画書を提出している。

#### (5) 人権擁護について

・強度行動障害を有する利用者が多いから、身体拘束の最小化を目指して、個別支援会議や身体拘束廃止・虐待防止委員会研修にて、一人ひとりの支援の振り返りをし、人権擁護に努めた。

#### (6) 職員の資質向上

介護福祉士資格取得について、法人よりバックアップもあり、3名が新たに取得し、介護福祉士は職員9名中6名。専門性を活かし、質の高いサービスが提供できる体制が整った。

・強度行動障害支援者養成研修のファシリテーターとして参加し、強度行動障害の利用者へ知識を高め、支援に努めた。

・職員による利用者へ虐待事案があり、その職員への支援に必要な接遇について指導、再教育を4カ月間毎日に実施した。事業所全体が支援に対する姿勢を振り返る場としても活かした。

#### (7) 今後の課題

- ・今後も利用者の方が落ち着いて小窓をご利用できるように整えていく。
- ・就業体験を通し、利用希望生徒の情報収集をしながら利用者確保に繋げていく。

#### (8) 業務継続計画

法人の業務継続計画にそって活動しており、災害・感染症対策各種BCPの見直し、更新をした。

新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染症については、こまめな手洗いや消毒や換気を行い感染防止に努めていたが、10月 職員1名が新型コロナウイルス罹患、11月 利用者1名、1月 利用者1名、職員1名がインフルエンザ罹患、3月 利用者7名(内1名みなし陽性)、職員3名が新型コロナウイルス罹患するも事業は継続できた。